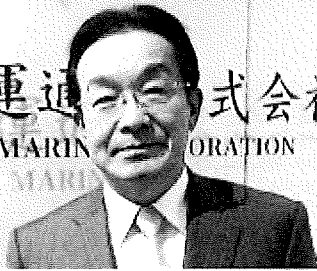


東洋海運通商株式会社

EASTERN MARINE CORPORATION
EASTERN MARINE



李社長

東洋海運通商は1997年、東京で船舶代理店として発足。現在の事業範囲は船主業、用船、船舶代理店、船舶売買仲介、オペレーター業と多岐に

近海船オーナー・オペレーター（船主兼運航船社）の東洋海運通商（本社・東京都中央区）が自社保有船隊の拡充を進めている。1月に17年ぶりの自社保有の新造船となる5000重量ト級バルカー「EMC FIRST」が就航。5-6月にはシリーズ2番船の竣工を見込む。安定した輸送サービスの提供を目的に、5年計画で新造船4-8隻の整備を目指す。

近海船 自社船隊を拡充

東洋海運通商 5年計画4-8隻整備

わたる。

用船業では年500隻規模のスポット用船を手掛ける一方、オーナー・オペレーターとして3300-2万重量ト級の自社保有船隊1隻（新造発注を含む）を擁する。

ビジネスエリアは日本・中国・韓国航路や極東-東南アジア域をカバーし、小回りの利く船型を生かして鋼材や鉄鋼原料、飼料、肥料、原木、プラント機器などの輸送を展開する。

李社長は「邦船オペレーターとはビジネス分野が重なっておらず、ニッチな航路・貨物を得意としている」と話す。

その上で、企業文化として「どんな貨物に対しても真面目に心える。小ロット貨物の見積も

りに一つ一つ丁寧に対応する」ことを強調する。

人員体制は東京本社34人に加えて、船舶管理スタッフとして中国の大連市と青島市のグループ会社2社で海技者計20人が働いている。

「自前の海技力を発揮し、責任を持って船を手

配している。ピンポイント配船が求められる日本の鉄鋼メーカーの鋼材輸送にもしっかりと対応する」（李社長）

注力する重量物・プラント・各種設備などのプロジェクト・貨物輸送では

日本と中国の海技者の協力の下、積み付け・プラン作成や立ち合いも含めて

今期最高益に

1月に就航した5000重量ト級バルカー「EMC FIRST」は中

国・台州市の臨海回浦造船所が建造。出力に優れたハイツディーゼル製メインエンジンを搭載し、燃費効率の向上を図っている。5-6月には同型シリーズ2番船「EMC FAMILY」の就航を予定する。

中自船舶にも力を入れており、16年以降に1万2000-2万重量ト級ツインデッカー5隻を購入し、極東-東南アジア航路を強化している。

自社保有船は半年から1年程度のTCアウト（定期貸船）と、オペレーターとしての貨積み輸送の両面に活用。昨年、近海マーケットの需給が逼迫する中、自社船隊が安定輸送の力を発揮したこと、今期は過去最高益の更新を見込む。



1月に就航した「EMC FIRST」